

事業所名 グループホーム いちごハウス茶屋町

日付 平成 20年 6月 4日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 薬剤師・介護支援専門員

介護経験歴 7年

自主評価結果を見る (工事中)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)(記述式)

車椅子の入居者が他の施設と比較して多いグループホームです。それにも関わらず、おしめの生活にならないようによく言葉かけをし、トイレ誘導していました。

残存能力を低下させないようにと歩行訓練やリハビリを積極的に行っていました。また脳卒中の後遺症で片麻痺がある方には励ましながら指を開く練習をして、少しずつ開くようになって来ました。少しずつの積み重ねが成果に結びついているようです。

医師と積極的に話し合い、入居者にとって必要最低限の薬で、確実に服薬できるよう考え、ここ最近薬剤の量が少しずつ少なくなっています。睡眠薬もほとんど服用しなくても生活リズムが保て、睡眠も速やかに取れるようになってきました。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

昨年の評価時とは職員が変わっているようです。なぜか職員の長期雇用が難しいようです。今回もぎりぎりの人数で精一杯、努めていましたが、身の回りの介助に追われ、入居者とのふれあいは余り見られませんでした。

グループホームの中が雑然とし、イベントを催した飾りなどそのままの状態が続いているようです。また施設内で犬を飼うことで、入居者にとってのアニマルセラピーを目指しているようですが、動物を飼っている分、通常よりもさらに清潔感を保って欲しいですし、全体として掃除が行き届いていないように思いました。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	一人ひとりの残存能力を低下させないようにと考え、グループホーム内で、歩行訓練やマッサージなどを行っています。また、1日1日を大切に本人から良かったと思ってもらえるように充実した生活を送ってもらいたいと考えています。個々の関わりをしっかりと持ち、「何をしたいのか」本人から聞き出そうと日々努力しています。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	入居者と信頼関係を築くため、関わりを持つことを常に心がけています。入居者と一生懸命接していると分ってくれるようです。身寄りのない方もいるので、職員は家族の一員として接しています。また本人の了承を得て、名前を呼ぶときは下の名前で呼んでいます。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	排泄時など入居者のプライドを傷つけないように配慮しています。言葉かけをするときは他の入居者に分らないようにそばまで行って話をします。言葉かけには十分注意しています。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	職員は月1回、勉強会をしています。何か問題があればその都度、職員全員で集まり相談しています。残存機能を低下させないように職員全員で考え、リハビリや機能回復訓練を行っています。また出来るだけ薬を少なくするように医師と相談し、睡眠薬は出来るだけ使用しないようにと考えています。		